

二峰性発熱，白血球増多，CRP高値を示した Epstein-Barr virus 感染症（伝染性単核症） の1例

にし の やす お
西 野 泰 生

キーワード：Epstein-Barr virus，伝染性単核症，二峰性発熱，
白血球増多，CRP高値，異型リンパ球，EBV抗体

要 旨

2歳4か月男児，平成19年1月29日より喘息症状を伴う発熱（38.2℃）があり，以後38～39℃の発熱が二峰性にみられた。同時に白血球 30,800/ μ l，CRP 2.4 mg/ml と異常を認め，2月7日（発症10日後）病原不明のため総合病院小児科へ紹介入院となった。入院時肺のレ線検査では著変はなかったが，一般検査では白血球 38,700/ μ l，CRP 7.7 mg/と著増しており，細菌感染が否定できず抗菌薬が投与されている。その後も発熱が続いたが，12病日に至って血液像で異型リンパ球増加（26%），EB ウイルス VCA-IGM 抗体，VCA-IgG 抗体陽性の所見が得られ EBV 感染症が確定している。本例は白血球増加（30,000/ μ l），CRP 高値を伴う発熱が2週間にわたってみられ，診断確定までに時日を要しており，稀ではあるが遷延する熱性疾患の病原として念頭におく疾患であると考えられた。

はじめに

Epstein-Barr ウイルス（EBV）は伝染性単核症（IM）の病原として知られるが，今回二峰性発熱，白血球著増，CRP 高値を示し，熱性疾患として診断困難であった症例を経験したので報告する。

I. 症 例

症例（No.3550）：平成16年9月16日生（男児），3兄弟の第2子。
前病歴：生後5ヵ月頃より喘息性気管支炎を反復しており，平成17年11月（1歳1か月）にはRSウイルス性細気管支炎にて入院するなど気管が弱い体質であった。

現病歴：平成19年1月29日現在

1. 当院での病歴

平成19年1月29日より38.2℃の発熱があり，喘

Yasuo NISHINO

西野小児科アレルギー科医院

連絡先：〒690-0056 松江市雑賀町433